

遊戯的活動 2

児童生徒は、最初、衣服が汚れることを気にして、作業を譲り合っていたが、自分たちの思いが作品として形作られるようになってくると、表情が豊かになり、徐々に、活動的になってきた。

ここでは、遊戯的活動が単なる遊びに流されないようにするため、振り返りの中で、児童生徒一人一人に、作品への思いを語らせ、創作意欲を高めながら活動を進めた。

(2) 野外炊飯 (生活的活動)

① ねらい

- 共同作業を通して、集団活動への参加意欲を高め、仲間との交流で円滑な対人関係をつくる。

② 活動

活動の内容	活動の流れ	指導援助
<p>異年齢の交流 1</p> <ul style="list-style-type: none"> B男が中心になって作業を分担する。 自分の気持ちを伝えたり、相手の考えを受け止めたりする。 		調理する内容を確認する。
<p>異年齢の交流 2</p> <ul style="list-style-type: none"> 各目が洗う、切る、煮る、焼く等の活動をする。 不得意な場面は助け合う。 		上級生を中心に作業分担を働きかける。
<p>異年齢の交流 3</p> <ul style="list-style-type: none"> 食事をする。 成功や失敗を語り合う。 		振り返りでは、自分の気持ちの伝え方や考えの受け止め方のスキル学習を取り入れる。また、ルールを入れ、事故を防止する。
		振り返りでは、人間関係を深めるスキル学習を取り入れる。
		上級生が下級生を思いやる姿や下級生が上級生に協力する様子を称えながら振り返りを行う。

③ 実践から

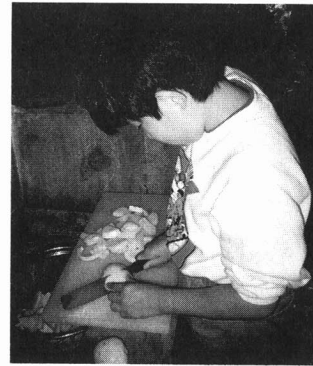
異年齢の交流 1

最初、野外炊飯に必要な作業分担の話し合いを行ったが、負担に思う作業を下級生に押しつける上級生や負担を感じて尻

込みをする下級生が出てきた。

そこで、振り返りの中で、一般に、不登校児童生徒にとって苦手な対人関係を活発にするために、「自分の気持ちの伝え方と相手の考えの受け止め方」の方法を下記のようにロール・プレイングで指導援助者二人がモデルを示した。

T1 「嫌だなあ、僕、それできないよ！」
 T2 「そうだね、大変だから。でも、D君にやって欲しいんだ。僕も協力するからやろう。」
 T1 「本当？ そうだったらいいよ。」
 T2 「もちろんだよ。」



* 包丁を使い、不安な手つきで調理する生徒

異年齢の交流 2

薪割り、かまどの準備等家庭でやらない作業に戸惑う下級生に上級生が協力して手順よく進めて行く。

また、野菜の切り方に思案する上級生に代わって、下級生が大胆に挑戦して笑いを誘う。お互いに力を合わせながら共同で行う体験は、やればできるという自信を生み、積極的な活動への意欲の高まりに結びついていった。

異年齢の交流 3

苦勞して仕上げた野外炊飯後のにぎやかな会食である。

ちょっと多めに盛り付ける下級生の配慮に感謝の言葉を掛ける上級生。焦げ目のないご飯を譲る上級生。仲間意識の深まりとやり遂げた喜びを実感している様子が感じとれた。